

北海道高等学校教育研究会 第37回大会案内

期日 平成12年1月13日(木)・14日(金)
主催 北海道高等学校教育研究会
後援 北海道教育委員会
札幌市教育委員会
北海道高等学校長協会

第37回研究大会に向けて —いま、現場の再考を—

北海道高等学校教育研究会
会長 田村 勸

記録的猛暑だった夏を経て季節が移ろい、色彩豊かな晩秋となりました。会員の皆様は、各地で白い衣を纏ったファンタジックな雪虫と出会っているのではないですか。このように自然是私たちの心身に確かな共振を促しているようです。

一方、まだまだと思っておりました情報システムに起因する2000年問題の時が目の前に迫ってきました。完全に人為的なものでありながら、施されている対応で予想出来るトラブルも無く通過出来るのか、また起つたらそれはどの程度の混乱を引き起こすのか、何か魑魅魍魎にでも出会う時のようなカウントダウンです。この度のグローバルな規模での体験は、人類史上始まって以来と言えるのではないでしょうか。

ところで、各種審議会、研究協力者会議などの答申、報告等を受けながら新高等学校学習指導要領が今年3月告示され、これらと並行して平成9年1月に国が策定した教育改革プログラムは、去る9月21日には早3回目の改訂をみました。

現場を担当する私たちは、新学習指導要領がねらいとする4つの柱「各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進める。」は、地方分権化が進行する中で特に重い意味を持つものと考えなければなりません。各会員におかれましては、地域の教育を担う現場としての各学校を再考し、顕現した課題を持ち寄り相互に情報を交換するなど研究協議を深めている日々と思います。

さて、先の会報71号でお知らせしたとおり、今回の研究大会から第1日目は午後半日日程とし、その内容を中央講師による講演1本としました。これは会場に近い会員は前泊を要しないこと、遠方の会員は当日余裕をもって参加できるようになること等でより多くの会員の参加が見込まれると判断したことによります。地元講師による講演（前回はシンポジウム）はありませんが、従来どおり企画されます第2日目の教科部会（分科会）で充分に本道の地域性は取り入れていただけるものと思います。

この意味でも期待されます第1日目全体集会の講師は、養老研究所長であり現北里大学一般教育総合センター教授、東京大学名誉教授 養老 孟司先生にお願いいたしました。ご案内にありますとおり著書等も多く、超多忙のご活躍をされておりますが、日程を何とか割いていただき実現しました。先生は解剖学のご専門ですが、曖昧模倣として不透明なものをユニークな論理で解明され、目から鱗が落ちると各界から評価の高い『唯脳論』（同書名で青土社出版）を展開しておられます。養老 孟司先生は、「心臓は物だが、循環はその機能である。」同様に「脳は取り出すことの出来る物だが、こころは視覚により捕らえることの出来ない形のない機能である。」と明言します。また、「からだは自然の一つであり、現社会は脳化されたもので自然は殆ど無い。」とも言われます。今回の演題は『からだと脳』です。「最も身近な自然であるからだと、現存する社会をつくりだした脳」を中心にお話していただきます。先生が学ばれ、勤務された東京大学医学部解剖学教室での約40年間のお話を交えながら、変転の渦中にある教育界にあって忘却してはならないもの、各学校現場再考への視点などについて、ご講演の中で私たちに気付きやヒントを与えてくださるものと思います。

第2日目は、それぞれの教科部会（分科会）に別れ、現行から新学習指導要領への移行に関する課題等をも視野に入れた活発な研究・協議が期待されます。

各会員におかれましては、平素の実践や未来の高等学校教育への熱い理論を携えて、来る第37回研究大会に多くの方々が参加されますようご案内いたします。

研究主題

「時代の変化に対応する高等学校教育の創造」

第1日目 全体集会 平成12年1月13日(木)

場 所 北海道厚生年金会館(札幌市中央区北1条西12丁目)
日 程 11:30~12:45 受付
12:45~13:30 開会式
13:30~15:30 講演

演題 「からだと脳」

北里大学一般教養
総合センター教授
東京大学名誉教授 養老孟司氏
(ようろうたけし)

略歴



1937年11月11日倉敷市に生まれる。1956年栄光学園高校卒業。1962年東京大学医学部卒業。1963年医師国家試験合格。1967年東京大学医学系研究科第一基礎医学専門課程博士課程修了。学位論文 "The mitotic pattern of the embryonic epidermis of chick during scale morphogenesis" により医学博士学位取得。この年、東京大学医学部解剖学教室助手。1971年オーストラリア・メルボルン大学動物学教室に出張(72年まで)。この頃、大学入学以来とだえていた「虫採り」を再開。1972年東京大学医学部助教授。1981年東京大学医学部教授。1988年東京大学医学図書館長(89年まで)。1989年東京大学総合研究史料館館長(93年まで)。この年『からだの見方』でサントリー学芸賞受賞。1991年東京大学出版会理事長(95年まで)。1993年T V番組『脳と心』(NHKサイエンス・スペシャル 驚異の小宇宙・人体Ⅱ)全6回のキャスターを務める。1995年Amuse-IWC Achiever of the year賞受賞。この年3月、東京大学を退官。この間、信州大学、京都大学、東北大学、新潟大学、大阪大学、北海道大学、群馬大学、山梨医科大学、お茶の水女子大学、東京芸術大学などの講師を併任。現在、北里大学一般教育総合センター教授。東京大学名誉教授。

著書

『ヒトの見方——形態学の目から』(1985、筑摩書房) 『形を読む——生物の形態をめぐって』(1986、培風館)
『脳の中の過程——解剖の眼』(1986、哲学書房、のち『脳の見方』、1993、ちくま文庫) 『進化・人間はどこへ』
[スズキコージ絵]〈科学者からの手紙〉(1987、ほるぷ出版) 『からだの見方』(1988、筑摩書房) 『解剖学』
〈新版看護学全書〉(1989、メジカルフレンド社、改訂版、1993) 『唯脳論』(1989、青土社) 『涼しい脳味噌』
(1991、文藝春秋) 『ヒトはいつから人になるか』(NHK人間大学) (1992、日本放送出版協会) 『カミとヒトの解剖学』(1992、法藏館) 『生と死の解剖学』(夜中の学校) (1993、マドラ出版) 『脳に映る現代』(1993、毎日新聞社)
『解剖学教室へようこそ』(ちくまプリマーブックス) (1993、筑摩書房) 『脳が読む』(本の解剖学) (1994、法藏館)
『本が虫』(本の解剖学2) (1994、法藏館) 『続・涼しい脳味噌』(1995、文藝春秋)
『考えるヒト』(ちくまプリマーブックス) (1996、筑摩書房) 『日本人の身体観の歴史』(1996、法藏館) 『毒にも薬にもなる話』(1997、中央公論社) 『身体の文学史』(1997、新潮社) 他

対談・共著書

『中枢は末梢の奴隸——解剖学講義』(島田雅彦、1985、朝日出版社) 『恐竜が飛んだ日——尺度不変性と自己相似』(柴谷篤弘、1986、哲学書房) 『解剖の時間——瞬間と永遠の描画史』(布施英利、1988、哲学書房) 『脳という劇場——唯脳論・対話編』(中村雄二郎ほか、1991、青土社) 『脳と墓I』(叢書死の文化) (斎藤磐根、1992、弘文堂) 『古武術の発見——日本人にとって「身体」とは何か』(カッパサイエンス) (甲野善紀、1993、光文社) 『The Lost Animals』(小畠郁生・中村桂子、1993、小学館) 『目から脳に抜ける話』(吉田直哉、1994、筑摩書房) 『人間・生と死のはざま』(生命との対話) (ひろさちや、1994、主婦の友社) 『「私」はなぜ存在するのか——脳・免疫・ゲノム』(多田富雄・中村桂子、1994、哲学書房) 『生命・科学・未来』(森岡正博、1995、ジャストシステム) 『男学女学』(長谷川真理子、1995、読売新聞社) 『三人寄れば虫の智恵』(奥本大三郎・池田清彦、1996、洋泉社) 『やさしい「唯脳論」』(桝田かずお、1996、株式会社メディアファクトリー)
『寄り道して考える』(森毅、1996、P H P研究所) 他

その他に、翻訳書、編著書、監修・分担執筆書など多数。